

1. 乳癌組織片による ^3H -Thymidine 取込みに及ぼす 2~3 のホルモンの影響について

永井良治 仙石光彦 横村将夫 彦坂善元
片岡 誠 小林俊三

(名古屋市立大学医学部 第2外科)

人乳癌および DMBA induced SO rat tumor ^3H -thymidine の取込みに及ぼすホルモンの影響を autoradiography を使用して実験を行なった。

エストラジオールは一般に乳腺腫瘍細胞の核酸合成を促進し、テストステロンは一般に抑制するが、ごく一部には促進するものもみられた。プロラクチンの影響はさまざまであるが著明に labelling index を増加したのものもある。

また人乳癌患者において、その月経周期の regularなものについてみると、排卵後の luteal phase に相当する時期のものに、エストラジオールによる著明な核酸合成の促進がみられこれはこの時期に分泌されるプロゲステロンの影響を示唆するものではないかと思われる。われわれはこのプロゲステロンの影響についても現在実験検討中である。

*

2. Res-O-Mat T_3 Kit の検査条件について

今枝孟義 仙田宏平 伊藤憲正
(岐阜大学 放射線科)

500検体の経験から本検査法の測定条件について2, 3の考察を加えた。1. 各 vial の放射能分布は均一であった。2. incubation time を長くするほど亢進症、低下症の T_3 値は益々正常範囲から遠のくに対し、正常者は影響されなかった。3. 温度による影響は正常者には認められなかったが亢進症、低下症共に著しく影響された。4. resin strip の挿入時間の影響は認められなかった。5. ローテーターの回転速度を速くすると亢進症の T_3 値はより低値を示した。6. 同一血清の T_3 値のバラツキは ± 0.022 であった。7. 正常者181例、亢進症91例、低下症14例から各々の T_3 値を求めたところ、0.86~1.13を正常値、0.83以下を亢進症、1.16以下を低下症と定められるのではないかと思われる。8. トリオソルブとの相関は正常者、亢進症において認められたが低下症では症例数が少ないためにまだなんともいえない結果であった。

質問： 井戸豊彦 (岐阜日赤) 1. 患者血清の採血

時より検査日までの保存によるデータの影響はないか。

2. 抗甲状腺剤、ヨード剤その他の薬品のデーターに及ぼす影響は如何。

答： 今枝孟義 (岐阜大学 放射線科) 1) われわれの所では月曜日に採血して土曜日に検査を行なう場合があるが、あまり影響はないように思われる。

2) まだ検討を加えていない。

*

3. Res-O-Mat- T_4 Kit について

今枝孟義 仙田宏平
(岐阜大学 放射線科)

100 検体の経験から本検査法の問題点について述べた。

1. 各の vial 放射能分布は均一であった。incubation の時間、温度に著しく影響され正常者、孟進症、低下症共に室温において時間がたつほど T_4 値はより高値を示し、また温度が 20°C と 31°C では正常者、亢進症共に 31°C での方がより高値を示した。しかし低温の方が正確な T_4 値が求められるように思われた。3. vial に 0.3ml の methyl alcohol 抽出液のみを入れて incubation させたところ、時間がたつほど第1回カウント / 第2回カウント値はより高値になり (温度が 20°C より 31°C の方がより著明であった。), methyl alcohol 抽出液および温度によって $^{125}\text{I-T}$ と TBG とが解離されることを確認した。テトラソルブのごとく抽出用アルコールを蒸発させるか、vial 溶液の量を増すなどの必要があるのではないかと思われる。4 標準溶液の2点の勾配が平坦になるほど T_4 値の誤差は大きくなった。5. $18\mu\text{g}$ %以上の亢進症の症例では血清を希釈して再検する必要があるが、この時の希釈液を何にするかが問題になると思われる。6. 正常者、亢進症、低下症の区別が可能かどうかはまだ症例が少ないので更に今後検討したい。

追加： 斎藤 宏 (名古屋大学 放射線科) 樹脂を用いて添加した鉄イオンのうちトランスフェリンと結合しなかった分を除去して UIBC を求めるに際し、操作を簡単にするため、レズンの形状を種々検討していたが、レズンストリップ (IRA 400 含有) を用いても UIBC を測定することができた。 MgCO_3 による値とは平均 $11\mu\text{g}/100\text{ml}$ 多い値となったが、測定が簡便である。室温60分間回転攪拌すると96%の鉄イオン除去ができる。鉄イオン残量の多いときも除去はほぼ満足できる値であった。前値をカウントする必要もなく、ヘパリンがあっても差支えがない。全量をカウントすればよく、ピペッ